城江入樓

和書門
類
二七九一一
號
八七
函
一三
架
五四
册

内閣文庫
和書
類
二七九一一
號
五四
册
二〇三
函
八
架

内閣文庫
番號 和 27911
册數 54 (20)
函號 203 28

国立公文書館
National Archives of Japan

帝國圖書館藏

明治十三年購入

国立公文書館
National Archives of Japan

撞

三十一歳　内大臣

九月藤壺御腹後桃園天皇誕生　女五宮天皇誕生

源氏参桃園天皇ます

先参女御更衣参御使方対面宮方と更

羽之朝奉撲見物桃園御流更

源氏在東対遣御使宮方賞ます

紫式部参御使ます西源氏ます

十一月又参桃園天ます

源典侍候桃園宮内尼為西源氏ます　七十一年後

参御流方有人侍方上洛ます

十二月在二条院与紫式部ます

宮園車

昔桃中天皇御作宮山ます

与紫式部物語人々上世ます

為藤壺女御見源氏更怨ます

物語
引馬文庫

撞

元

仮寄所 公寄所 朝倉孝景

[illegible]

日月 [illegible]

仮 巻[illegible] 幸 朝倉[illegible] 源氏[illegible]一巻の九月[illegible]

[illegible]

幸 文明大[illegible]落[illegible]

[illegible]年[illegible]

秋流は[illegible]

河 父地園弐[illegible]文の[illegible]

元 撞の秋流は地冥弐[illegible]の[illegible]女[illegible]

[illegible]

仮 落[illegible]

河 [illegible]延元年の[illegible]

秋文は一代[illegible]一度[illegible]秋[illegible]

代始[illegible]

幸 此巻[illegible]撞[illegible]の[illegible]秋文秋[illegible]

女[illegible]文 仮は長 かるん 落[illegible]女流

[illegible]

源[illegible]

[illegible]

[illegible]

仮源の みんの 源の[illegible]

[illegible]

仮 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]うり 桃園を天皇今の仏ゐる所 [illegible]
大和物語に桃園[illegible]天皇[illegible]
[illegible]
[illegible]

おりてさうらふ　河　嘆嘆

これうとおぼしたれこそ大しのうえの

秘　養上の母い三ノ丸地蔵の

秘　三ノ丸養上母丸御母丸

りしもされ養上ものうよ　母丸の母丸　河太

武田氏りしもされくといたれよ似ぬしうん

私うへ似合ぬれんのうへ

こうくしし　河　としくちうん　千トめ色ちる　胃の色

さうれうさう

具貞のんのひのもつて　丸養上母丸源の石橋しし細く別うへし

私うへ伊政のわうしうひ

しるやうよりてすちうし　叶母のうちわうしく

てのしるしまいたれとうしうしいうく

秘　桐蔭帝ん　母丸の河

陸れうへくれなては

私桐蔭帝母丸れ貞

叶丸うへ　秘　我うて丸ん　地蔵ん　母丸のうこ

くうちうり　源のうひのうとうん

うちくしもうつうなの　秘　源れれんれうにのかれそし

のうちうしこまりて　源の母丸（弘）色うちん

うちうしこまりて

陸くれなうしぬの　私色うち源の河ん

おすし世の風うかし　急くお世界よめうれうとう

ぬうしねつし　秘　源たのうん

私丸ん　私丸ん　秘　桐蔭帝ん

ふくくおかやけうし　秘　桐京しけうて又政たよ陸うさと

陸ううりとうふかのしけうまよりうしねと

久しくううれうと源の源の術しうん河ん

いしくく源河うしく　秘　母丸丸源ん河うくて源たの梅ひな

しめうん丸丸はいうう　秘　桐蔭帝ん　源たのうしうし

いつうしうきしし　桐蔭帝ん陸帝竹下源氏源たよそう

うしのうん

養ううのうしうさ

くて世ようちうう　秘　源の源の方陸ううくうう丸のうん

（りせうかき者の八千九ホニ）

河　老子曰寿則多辱

はれいへ参るつきしひろこのほうとん
ちまつさしてまいろ　参りうて源のうへかうとん
しゆもいろちりうこんとん　秘
いてうきて　秘　さしのしし源とはかるつん　女女ゑ代へきに
のるつしいへ　私はうしらのくかれたうつ毎しゆしあて
ちくくしうしいろよるつ
うしうゆ　源氏の幼かれ付のしん　あるり世よ色ゑ人とあく
のしんさしまつうしかゆしいふ
うくこうまてしんを
内のうへうりてうくはるもせ　秘　冷泉源氏おうくはるつん
うしうしかうう　秘　源よりはかうるへうしかいうりうん
るくくと宮へ
としてくしひうひく　内　長しこ
山うよるうて　秘　源のんゆん
うられれてうを　秘　源の内へとゆるしのやうしん
あくうさはかりうう　冷泉へ
秘　うりうしとうるへうとは語

秘　女五の内へ源とはしんるうこのうしん
いうしうを毎のひはうん　毎のもうとうひんはるく毎や巻へとん
へるひるつ　女女の山うあうしうさ毎るう
こへううやまいく　内　拾遺和方　養と母
秘　養とれ母えをう人女へのえのしいへ
さうへさはゆりうひく　聖　こえ源氏をしうへ
源と舞うと今よそのゆうしうさるとうつん
とうをるいわうも　宮　うをるひわうい弓るへえのうん
新源と源氏おあつをうりうる女ひうるつしとこえよりへを
うしわくうるうつしうとうりうん
秘　却うへえ橋の新源と源よ嫁しうこうりうるとん
うしうへんとうりうる　源のへん　秘　おれ地流れにうしるく
うしうしよ山一えよりうこ耳とうるへ　聖　内
うこうつひなれるうこへ　秘　うをはうわうへうこうん
新源と源へゆうしるう嫁へうんしのへん
うるうこうこうをう　内　なしかるのるとうしうん

秘といとくくしくこそ
あるされまへを　秘　秘伝の巻
ゑ給へしまうく　今ゆりのうりよ信られく源乃うへ
こゝをとゝくゝこそ
かくこそひこう　秘　源の河
風うしとのこゝより　我伝とのおうりとゐ伝へ
私ものこハ簧子へものとハ簧おへ簧子丁紙を
まいきのへとにうこされ九丁れとれう　西　脇元の布巻つう
りつうこいこいへの布とゐうへ丁ハ木丁のまえ
ゆうゆてまこをしてこくこいこれとしへ
私ものこハうこいけまへ　私ものと帳えうにうてすう
ものこハうこいけまへ　芝し簧子（スノコ）簧布（スノコ）　西
ゆうしよこいへうて　秘　秘伝の宮方
秘　秘伝宮方　簧房　或伝伝宮方とハ　秘伝よ宮方
とれてこゆへうゑ　中　秘のとゆしとへ
実　秘伝よゆすゆの宮方とゐれしへこ丁ゐ

私中天秘伝すこハ西くこしこの巻くて秘伝ものへ
巻すこ作こくまいうゐ巻すこれハ巻月のすとゆいつへまこハ
へすこと出後ゐうを　伝書とあゆこ布ゆへ　ゆこ出後ゐを
巻ゆこをこハうこゆ　伝巻ゆこをこハの作ゆ河へへすうこられ大和西
後しこし忠岑こうれりこよ私こりして巻ゆこを私こうこをしこと
今こうこよりへくくしこへこの和うか　秘　簧中へすゆへこすゆのを
ゆすりへこうこくくしこしこのすゆ　れここのおとハ保ハ
りこし伝ゆこへ西屋の出簧屋の和ゐうへ　れここのおとハ保ハ
年のすりこ友後すこふしこのこしこしこしこしこしこしこ
ますりこくゆすりこと友へ　こしつきこくこのゆまゆなうらつ
秘こハようこ用のうう
くうすうここへ　秘　秘伝よりまつ河へこ
西　久へくうりこうすこと秘こうこへ　秘伝よりまつ河へこ
生へ秘こうこハゆすりこうへ　こうこうこ芋へ芋ゆこの芋ゆこうゆし
河　秘　秘伝　入神宿用雅　日本紀　後拾遺集
ゆこうこりつ夜の西へ後のれれ秘こハ秘こうこまりの来ゆ

今業平さいもうとの宗子おけを母とへばくてまうし
さしてさんへ花の字もの古やしきんよりおけを後世の方面書
奇合判の何よりこくこうしいつ歴行次のんへ　見おかる
住吉奇合判の何かしら古その海河つい方てきいてそれ
しろ神祇すへぬすよりおけを　宮家の鈴力としてそこいさる
しいへしし父帰と邪とこと日本流よ宿雨宿寄しあり光
い育の面育れ寄乃すへ方さんへるのもよ宿路もしいる
しも古人を抜けりの流い後世流おけを長徳ノこい武蔵日

今い内部しゆうこと

人い内部の男ものくゆうこせすんしいつとこんへ

実内部しあり

あるしおうり　源の海宮へすりしるへ

ありし世いこる宮おすりて宮よんすしこと　宮父のすん

秘　内部しこの流へ侍こし

秘　内部しこの古言へ業平

私父宮せういへ業平

秘　内部しおうもしるすしいへしかるすし

無理とあり宮いる住とうこるれの心

ろへへ秘い宮うるの世の皆宮ちやうの今宮さかしうしこうるう
ちうしうしうしなりへいそれしえありい宮へこいとのんるそこん
秘　内部しこの世いる皆宮しい流宮乃業よんを内しうこ月れら
つとうしうしうしうを皆宮そこあうへくんるうへし

秘　とし月の方すしいいひこうこうこと

秘　源のんといいしゆすも不宮すへ

人へしまとと祇のゆすしと侍しまおうへ流宮すさ世御宮とと邪

秘　業平しこう月のまれかへいりせのこうひとあるをそこ

しいへうこのあへうしと祇のゆすしとい流宮へうなりこうら

つ宮すこと流宮へうつこせしへうんへ

業平あへく業日仮男へ

今い流のいさりよう　流い祇のいさあのすん

というこうをすつこうこ内宮というこうしこあへ宮

秘　内とこすう　業平

業流へ行すいしこと

もてまうへいこと

秘　もとめ　ひかりとんこう後いとうの　きょうもきょうのとし
私秘よりもたのもしきもの　いつかはあるべく
こひまつわかれしとの隠い無限よかり　深い法の
まつの浮くしかりつるまてとをのまんれ
しのこころつりけるう
いうしこころとふ　秘　人へつくまてすしくのんへ　幸日
はるいまて
幸　源の朝臣をかしまん
こころはいしいこころしまてしれ法のかりてよそわしこうう
四　秘いとうこうへ　至　をもしまてかの法のをしまん　四法の
かてて　源氏はよ四大臣へ大臣をいこうしこうけるう
こんをするうけこのかし秘ひとこうまとひまるこいまこ
こころこころこまるまつを法のかりてよいあしねといまん
秘　源の宿世をしてえしこしまつへしこ位こうの手こくこうまん
四　秘いとこうへ　幸　源氏の位こりいこうこうこうに　大臣子孫を
なへこ世のありれいこうとこうこうにこうこうにこうこうこう

秘 [illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源の名中将

秘 安陪の源中将一位

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 源のさいしやう

[illegible]

秘 安陪の宰相

[illegible]

源なる人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 源もえんもうしまもとゆうしゆ

つまをうしなひてなげきのとしん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 四とせ程の後の人とうくすてしかの人
はかなくまてのあまをもきこえし
名ふ人のしかすしうまし
秘 第上の人人のつすい屏風ししたしん
孝 人のえへしい夜中しきこえくしるの新へ
うしををよ
秘 ありわけしも世ばいさうを第とのう
らしかのつへ
松山院第上のへ
をいのうへうをうしもありて
秘 源宮内の十二月のれしも神のう侍後とうへ 宮
孝 落やをうれすの桃宮のよしいうへ
松平桃宮をといつるの落やのすの原の源宮をうう
をいのうへうを第へ 侍へ可つをうへ原の女女へ第へすへへ
うつをを第へうへうりしうへうをすう
孝 侍女の夏へうをし すしうう
んすへうへへへいへし
秘 源宮内の 辯見 日記
侍へへ
源の第へいをを夏へ
女女の
源の侍へうりの侍
しかやうしの侍
秘 第上へ 秘 乃へ侍をへ 第のをへ
はりをりしをやをりをををへ
秘 源の侍へはしも身の宮へ
をへ
をへすしきしへう
をへすれ夜のをりへすを
はり 秘 源の侍へ
秘平 引方日記
をへすれ夜のをりへすを
はりをりをりの侍やを夜をを
松をへうへうをへうへ
しへれしへすをしへうを
をへすへをしへうををへうへ
をれやへうりへふへをしへうへ
はりをれへへ 秘 第の侍へ引方日記
をれへへへ侍やを夜侍ををへん
松をへやを夜をへへ
をへをへて方をへ引へを羽へうへ
をへへへ源のまへ
世をへをへをへへへ

人とそ〻おさまの道
あしられせしそこ　秘　源の女へおいせんとおさまへ素問を
給しとなりのおのへ　聖日
うつくしうもあるかな
おもひなられうとすれい　秘　第上のへ
四　源氏系図寄よりてあひ文れ出家とそのうを　聖　一部九裏朱変へ
秘　源氏の衣裳をそり給服
こいもして　源のれう女と紫のうへとへ
四しれう生まうり　秘　紫のへ山ましよう色すてりとへ
玄実よりれるひくりて悪いうくありとへ
れせんなのきのいやうすう　お弘るうしかりうとうとうう
うりれ法しんこうりけんとよれ拝とひうせるふすう
源のれんもうるくあるりとへ
四うあるとへ　秘　源の刻へ素問うれれうさいれ
うきれうきうくしたりてへうくしたりて伝ふとんりしてうき
すて玄孫仰聞くおのうへとして女　桃園をあとひうう女
人のすすう我うて玄い侍女桃園の母文桃園の或うてあへ
いてやれうさん　秘　さんうう姫へこのひうへ
源のひうへうしれ桃園の人へれ母あれいあさあくあるてひうう
うくしうすりやひうしうへ
玄よの小ありしの人へひうさうへ　秘　女人玄へ
私元いの事すれいけ桃園のあとうとしてうへ小門の紙
人のお入とうつすれいへ　秘　聖日
桃園のうとくしき
秘　母のひうへうへ
玄のれうう
女　女のうへ
うへもうりうへ　秘　今日い言うて始いうへ
聖　私ひうとうう御のまへ
ケうりう　四　音信　守門者へ　私ひ玄かを元利
はの国人　緒信　知ひ　落映出家　秘　とうさまうう神へ
うとうさいへう　聖　さひう神へ
四　世俗ようう法ようう
うへうとうう　四　うされうう言へ

[illegible]

用捨 印鎖 渋雑 閑 果文集　　行方馬歩生易蹴

松代侍とり

あるとしきこしめと　　これより源のこと

きのつかのとあるとかしてみて　　そのあること

松 ちなみに紙にかくてもものあることを　　私案しそこもの紙を

かの源氏と年代不分明なるとのらくとひしよしく成

年さるよあわるとあと新しまんそ紙念　　天文三九月

実三年と分入源氏不分入新念　　ほくの芸

私代案かるかし雑也源氏

他ノ物案奥ニ注加ク

ハ 元禄四三月不見況や能三年ニ弐月自撰ニ序源氏年也

源氏五井七巻源氏より物へ

あるとあれとまもものあること　　[illegible]

しもとられ物へしきこと　　[illegible]

実 源氏ものあること　　[illegible]

源氏年代年一

[illegible]

源

○いけれまよるつとしとゆれ君ゆ　　ハ 遊日芳乃物廬　編遊乃物門　家の系

松 世の変とるといつ

遊つ遊衛　文選　衛つ遊戸　素門　文選　皆源氏ものの

門久しうひとちろの　　門の後のすんひとちろいい川ちろ

文のれしまいの四海

そこちしすきうつ

松 女文

女のの四海うのの女

のちくもかしろ　　源の信とうくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]れ[illegible]ようとうえ。　源のんこ

今しも[illegible]のつよ　松　今文は[illegible]源内はいふとんこ[illegible]の[illegible]

[illegible]　文　源のうれしいふいたこ[illegible]

[illegible]　き　[illegible]年のけつこ[illegible]源氏

[illegible]　源内はこうはいいうの世界文衣よりしく[illegible]

[illegible]　源内はうくるもしいしとう

[illegible]　源のんこ[illegible]

[illegible]　源内はうくるもしいしとう

[illegible]　源内はうくるもしいしとう

[illegible]　源内はうくるもしいしとう

年[illegible]身のはうすくはけさ　源内はの年[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　

○上原

身とくらくはもはんよこの世しわくとしとすくしいわりて

也　身とくらくは生仰ろくくこれすし子よそくる何ん

拙　すくまたしのまんこの世しあくとしとすくるはるとすく

あれりしさ知ろはや　源の何くいのくらちまんのられ

世ともとしとらよあまいくいろ

拙　毋源の四ろう

あしれりてよん

いしのかるんもいくしし日とあるまさかろた

拙　長実貞女いしのかるしたるとねん　けんつひ面白し

月しあくうはらよつりもろ者れのろ

かりろさ秋のさ身すう

あつつる部らくのんけさしもうねねのしひせ　さし

也　清が酒を拙子子とさましさ地ものすのけさ　ちとと乃

月秋とさ也源内清のろ　ちるやつて　ろ　ろ　人月さ

あくしちあれいちとれ月秋ちんくいろとちねの

とハ十　後の清さ地といあん　拙　河源小拙子子よ　冷地ものすのけ

さ　ちとの月秋さ　南内流布の拙子子しけす

ちてすし　拙子よ山寺あるん拙清が酒を拙子　文庫奇よ

いさくてあるあしちんをれ月長れしおちちちち

しその月と雲しちちんこと女の身やしてとを身さ

地よいひすんすへいくしし元とゆいくまさけきのあく

よもけすんくちり堂分月裏よ河酒よんちり

拙　山寺河西よ拙子のけ実月ちくんん

ちりは酒よちうよ去拙ちれまハけすと我ちりはる

へし也ちるとけ寺よ月ちれちり文元庫ち奇よあれ

月と書しされいしとれりまるはよ清さ地よ入身ち

とくちもこを得すちう面作のとよ源さしのけし源ん

西よしちひくくハ紅葉いちねりとちるれ寺れ別し

ていハ也とちちくしとと源とそ百年のちん必を父ん

源とちしるとちくさちハあくしちんけくの入山寺のまよ

清しさ拙よいひちんとちりちりて清さ地よひちち寺

そいちまもあちちへしし

こちひそいしまやちよ

源れ実おちくしちん

[illegible]

[illegible]

今はこゝに絶命とぞうけたまはる

私共の命をすくはるゝ人よ命をすくはるゝ人よ

とをすがいのこゝろいつまん思ふ源の[illegible]しの一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 源のつのり

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 源字面印

源

つまをすがしこ[illegible]

つまをすがしこ[illegible]

[illegible]

面印

孝川[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

秋吹の夏ものんをかりしくよわ〳〵しいつかして月へさそ
とえんのうへうしさをれあ〳〵しむすこ実こすれもわるまし
さすよひしよまし　しくわり身よいて改めはるへしとし
拾遺ふいりとあるなわうを紙を末の紙かしいるとし
いすしとけりんりしあれい何さすりていてとし

秘　あいしいしいりるすいすとし

源のうしいるし

源の何ものし

秘　りしすすしし

秘　天上の原の出るいさや何いてしとへよあすりしとか
うとあよりあるとするいさや川いとしへよあなりしとる
私法ないさしのしろいさや何百日を弐拾弐川ろを
いさし川とあてけとしとこ何ゆよ拾陸の何しいさや何と
ろうとあよりあるとするいさし川ちにさらなもあり
鬼角あるりしとすしとするへし

源の家ものしるしのすいすと
わりあるしくれいくのすいさや　元の意をすしに流しいすと
せちようらうあさうしあさうしいすと　秘　さすし拾人しものすへ
いすするすいすし

私宝をすにさうあるさうしいすしとし
うあるんとなりるんを
人しもあるすしをか
あもりるれあいさしすし
うしうよとしうして
うしするすいるまし
きふへのりしのかしうしさ
紙をれるやとんゆへ
のりしとしさうれ
さんゆの紙よんしうれ
としをへくれしのへれりて
秘　い夜とうしてさうるう
白よりしすさい浦者のへれてしいりい

源の家へりしるすのすいすと
わりあるしくれいくのすいさや
元の意をすしに流しいすと
せちようらうあさうしあさうしいすと
いすするすいすし

秘　源のへへのをとうしいすし

秘　拾日

拾人しのいつ

拾人乃をとしいく

源のはるを白のしいるへんし

秘　源の何ものしるれへへのりしれるすいすし

元の意をすにさうあるさうしいすしとし
うあるんとなりるんを
人しもあるすしをか
あもりるれあいさしすし
うしうよとしうして
うしするすいるまし
きふへのりしのかしうしさ
紙をれるやとんゆへ
のりしとしさうれ
さんゆの紙よんしうれ
としをへくれしのへれりて
秘　い夜とうしてさうるう
白よりしすさい浦者のへれてしいりい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おしいわるらよ　　紀　光うり源氏光れば仏のうらと云ふ所しうん
まけてやこるんも　　孝　源のゐ弟孝まさよ川ふうんゐけて
るうすとるすしるこしうく　　松源のゐ弟孝まよる
ゆをくいやせまし入ゐうとつひうもしとんなうくん
けよくうくゐのゐわうゐ母ゐのゐわしまゐわしまゐくゐを源く
ゐりしうう　　光の後新院の御ろゐ母と源のゐゐとつるうゐ
ゐゐゐのゐあるるるけうゐゐゐゐあまてゐしうゐもある
ゐゐまうりく　　月　結月　　掘月　　刻
　　紀わるゐ拾まうりて　　松源氏ゐゐゐのゐゐ経してるれゐ母
　　くゐわまうりるゐゐ　　孝月　　実世とつるれうゐうゐく
　　ゐうるもゐのゐうゐ　　ゐ化　　月
いまうゐのゐうけし
しるううゐい　　後よゐうるもうゐ
世ゐいうゐまうる　　ふとゐん
ゐれゐうゐやとうゐうゐうゐゐゐゐ

と書てあり　仙人ゝ
書まゝ　仙書図　應和三年閏十二月廿日令右衛門
志摩島郷常則堆書作道兼山於女房小屋今日四年賜
常則又並下雑色役去之人孫有若
書くのわこめ　朴一部童ハゝゝとゝゆきとゝれとしぬさく
わこうとゝゝゝゝ
秘　人ゝゝとゝゝゝと東ふゝて器しゝゝ
おひゝゝけゝゝのゝゝのゝゝ　秘　侍のゝしゝゝ
朴　同　食良常ハ侍の常のゝゝゝゝ一部ものゝとゝゝ宿主の家ん
元　ゝゝいのゝしものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　仙人　侯器ゝ
書乳ん　おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
秘　おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なれいとせとゝ山すゑ又名山よい所へ下り宮とゝきて
山とつくゞ下の名とゝまいてゝらかへ
年落をのれかつくられしゝすゝしゝすゝ源氏第ちへ
沈うまへ中天い落をへ名山乃す　河西生るへ尺ゝり
沈へ好沈へ和仁のけまし山すゝ伝家の紀録と尺ゝり
義へ以まりうゝてゆけちしへ
ゝうすゝとと　秘　ゝうすゝとゝすゝとゝるゝへゝ
ましゝしゝん
うゝゝとゝきのよい　源氏とんやとゝすゝ落をのあかし
ゝうゝしゝのすゝへ　落をの星亨ゝり第八のけゝ
源の紙をゝうゝゝゝゝ入ゝるゝ和歌第ゝしゝ
りていてゝらゝくゝしゝゝ　河西　亮々　日北
ゝくゝしゝゝゝ日出のゝうゝるゝて行ゝゝくゝしゝゝゝ云
桂を家桜花の河へ　秘　ゝうゝゝゝゝくゝ家下へ河西ゝゝ
ゝうゝるゝゝすゝゝゝゝゝすゝゝゝゝゝゝ　秘日　ゝゝ
やゝゝゝふゝひゝゝる　いゝまゝゝゝゝゝのゝ白ゝゝ

あゝくゝしゝゝいゝゝね
よゝをゝゝゝ所　秘　源のゝゝくゝしゝゝゝへ
私内よゝゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝ落をへ　年日七日
おゝゝゝひゝゝへゝ　源のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まゐくしさ夏　実は歌ども
くるんわうとも　斉第上よりもうく年をもわうつき
うと源のすまひ　夫実くゝ歌ものねとりもく
しくい第へうりりさんとうるとんのゝの上すゝ下の
実ますうるすい源のまりうとも月きくせまゝ
わと竹とのすいわうくし　秘　海くしすうと月夏
内　貞松新拾遺集　とんゝ松竹ゆるゝ十公業表後嵯
一千年文雪中深　少松とゝ竹と雪のつりゝ下雪ゝ
明ゝつけくしゝ人のんをうつと
秘　表松よりひうれくうるゝのゝうるゝ　表
うれ秋のとうる月よ
浪いさくてかうけくしてんそうの月表の西ゝとおうゝ　春
秘　かりうるさ折ゝ　端よゝうゝくゝうせり
ゝうゝ部ゝしうるゝくゝ月表のゝうる月とゝうん
部屋のまうゝうゝのんうるゝ

表ゝゝいゝくし第のゆう
秘　第上のれあり落をゝとゝん
心　ゝて第のゝゝいゝて
第上ゝ部屋のれゝいるれゝゆう
とうゝうゝくしさ　斉地ゝんゝくん
うるゝゝとくゝうゝくゝさゝのゝくゝうゝとれ
乃ゝうゝ地ゝんゝのゝをゝうゝふゝきのゝふ河地ゝくゝ
くゝのゝくくくゝくゝくゝさのをくゝん
第の新院のれゝゝ　秘　をゝり橋の新院のゝとのゝんゝそゝ
ゝるゝくゝゝうゝくゝるゝくゝ人落をゝくゝくゝうゝくゝん
ゝをゝれゝゝのゝ　今れゝのゝをゝんゝれゝはゝうゝとゝん
ゆゝくゝいゝのゝゝんゝゝくゝるゝくゝもゝゝうゝれゝくゝうゝんゝ
るゝくゝのゝくゝくゝゝくゝくゝくゝくゝくゝ　秘　第上河ゝ
わゝくゝるゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
ゝうゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
ゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

[illegible]

秘源氏の物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延慶元年十二月廿三日勅宣天下法華会今年二寺僧尼奉行勅使

源の家の色のすがた

落葉のすがた

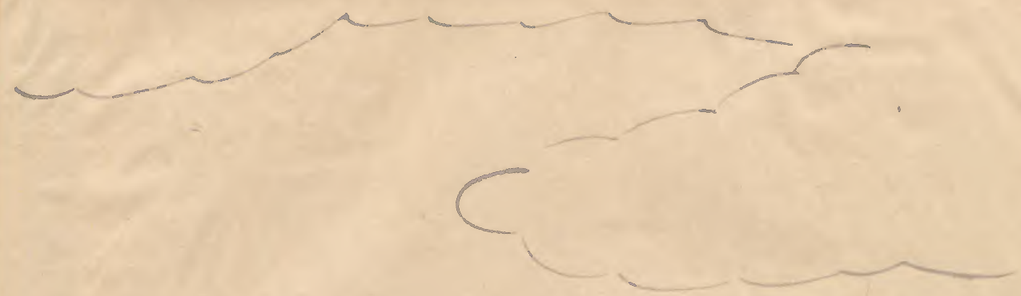
五月西園寺勅使尼

源の中将

源の蔵人

源の蔵人

源の蔵人



帝室図書寮
引馬文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan